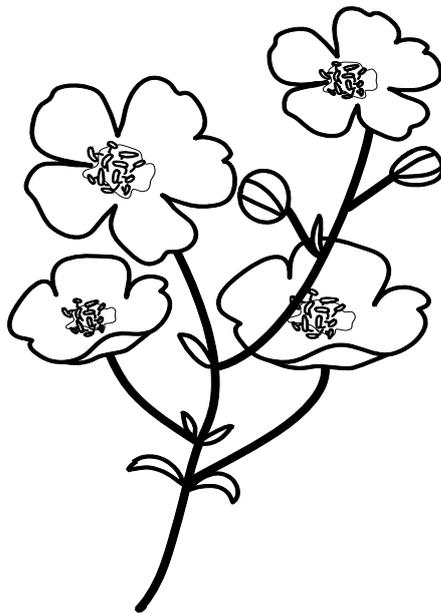




令和7年度
運営に関する計画
【最終評価】



大阪市立菅原小学校

(様式例 1)

大阪市立菅原小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全安心な教育の推進】

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思っている児童は 69.8%にとどまり、現在本校ではいじめに関する重大事案は発生していないが、いじめに対する意識の低さは今後の大きな課題である。いじめの早期発見・解消に向け、いじめ対策委員会や生活指導連絡会を継続して行い、情報共有や対応について話し合うなど取り組みを進めているが、今後も継続して行うとともに、「いじめを許さない」学校づくりを目指し、チーム学校で取り組んでいく。
- ・問題行動・暴力行為については、関係諸機関等と連携しながら対応を行ってきた。その結果、ずいぶん落ち着いてきたが、今後も毅然とした対応を継続して行う必要がある。
- ・不登校児童については、組織的対応を協議するための対策委員会を定期的に行なってきたが、不登校になる原因は様々で対応が難しく、解消には長期的な対応が求められる。今後も関係諸機関と連携を図りつつ、粘り強く児童・保護者に寄り添った対応を行なっていきたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における国語科・算数科の平均正答率の対全国比を同一母集団で経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させるという目標は達成できなかった。基礎・基本の定着や学力向上は今後も継続して取り組むべき課題である。その一方、校内調査における「国語科の授業の内容はよくわかる」や「外国語(英語)の勉強は好き」という質問については目標を上回った。今後も、スクールアドバイザーの指導のもと教員一人一人が研修を深め、授業力向上を図っていきたい。また、外国語についても、C-NET と英語担当教員、担任が協力して効果的な授業を行ったことで子どもたちの意識を向上させていく。
- ・「運動やスポーツをすることは好き」や「給食を残さず食べるように心がけている」と肯定的に回答する児童の割合は目標を達成することができた。なわとび週間やかけ足週間、ピッカピカ給食大作戦等計画的に実施するとともに、保護者への啓発を積極的に行った成果である。今後もみんな遊びを継続して実施し、体を動かすことへの興味関心を高め、体力向上に取り組んでいく。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・教育情報パソコンについてはどの学年も授業で効果的な活用ができた。情報教育の年間計画の策定や情報教育週間の設定、教員のスキルアップを目指した研修会を継続して行うなど教育 DX の推進に向け取り組んだ。また、心の天気や相談機能、ダッシュボードを活用し児童理解を深めることができた。
- ・校内調査における「学校は公開をよく行っている」という質問については目標を下回ったが、今後も家庭・地域と連携・協働した教育の推進を目指し、積極的に情報発信を行ない透明性のある学校づくりに取り組んでいく。
- ・教員の働き方改革については、ゆとりの日の設定や行事・会議等の精選を行い長時間勤務の解消に努めた。教員が健康で生き生きと働くことが子どもたちへのよりよい指導につながると考える。子ども一人一人に向き合う時間を確保できる環境づくりに今後も取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に児童の割合を72%以上にする。
- 令和7年度の校内調査における「学校は、子どもが安心して過ごせるよう適切な安全対策をとっている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より4ポイント向上させる。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を50%以上にする。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「外国語（英語）の学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査における「給食をのこさず食べるように心がけている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。〕
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準（基準2）を満たす教員の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の校内調査において「学校は情報公開をよく行っている」と回答する保護者の割合を90%以上で維持する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

(大阪市教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を72.1%以上にする。(令和5年度72.1%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に児童の割合を74.5%を上回る。(令和5年度74.5%)
- 校内調査における「学校は、子どもが安心して過ごせるよう適切な安全対策をとっている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を89.5%以上にする。(令和5年度89.5%)
- 校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の1年生～6年生項目について、肯定的に回答する児童の割合78.8%を維持する。(令和5年度78.8%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を57%以上にする。(令和5年度56.6%)
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 校内調査における「給食をのこさず食べるように心がけている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を91.8%以上にする。(令和5年度91.8%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。〕
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準(基準1)を満たす教員の割合を62.8%以上にする。(令和5年度62.8%)
- 年度末の校内調査において「学校は情報公開をよく行っている」と回答する保護者の割合を84.7%以上にする。(令和5年度84.7%)

3 本年度の自己評価結果の総括

全教職員が目標達成に向けた取り組みを行った成果が表れた結果となった。

きめ細やかな学習支援や家庭との連携、それを通して見えてきたことを分析し、新たな支援へとつなげることが、中堅教員を中心に行われ、学校を支える力となっている。

安全で安心な学校づくりを進める上で、不登校・いじめについての課題を教職員間で共通理解すること、関係諸機関と連携すること、体制作りを見直すことなど、今年度さらに充実した組織づくりをすることができた。もう一つ、子どもが安全安心を感じる要素として欠かせないのは、学級づくり・授業づくりである。1日の大半が授業の時間を学級の友だちと過ごす。一人ひとりが安心して学びに向かえる「楽しい!」を感じる学びの環境づくりを目標に学級経営に取り組んできた。

小学校経年調査国語・算数の結果については、年々全市平均に近づく結果を出しており、今年度5・6年生においてわずかに上昇させることができた。本校は、10年目以下の若手教員が48.5%を占める。日々の学びに向かう姿勢をつくり、学び合う学習集団作りに向け課題を確認し、今年度は「学ぶって楽しい!～主体的に学ぶ学習者の創造～」をテーマに全教科を通して校内研究に取り組んだ。「授業がよくわかる」の回答の質が向上するような力を身につけられる教員を育て、学校力の向上につなげられるよう、今後も努めていく。

学習端末は積極的に使用し、子どもたちにとって学習活動で使用する教具となっている。学年の実態に応じた方法で活用するよう組織的に取り組み、大きな成果が見られた。

若手教員育成を中心に教職員の意識改革を進め、「強く 正しく 明るく」をめざした学校運営に向け、課題改善をさらに行っていく。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を73.7%以上にする。（令和6年度73.6%）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○校内調査における「学校は、子どもが安心して過ごせるよう適切な安全対策をとっている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合92.9%を上回る。（令和6年度92.9%）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめの早期発見・解消のため、いじめアンケートと教育相談を実施する。また、いじめや暴力行為、不登校に関する組織的対応を協議するための対策委員会と、生活指導上の諸課題について全教職員が共通理解するための連絡会を定期的に行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを年3回実施し、事後の適切な対応と解消に努める。 ・児童理解研修会、いじめ生活指導連絡会を、年8回以上行い記録として残す。 	B
<p>取組内容② 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学校や家庭、児童の健全育成に関わる関係諸機関（警察・子ども相談センター・区子育て支援室など）との行動連携に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の研修を含め、警察による防犯教室等、防犯に関する取り組みを年2回開催する。 ・非行防止や薬物乱用防止に関する指導を、高学年対象に年1回実施する。 ・必要に応じて、こども相談センターや区子育て支援室などと連携し、児童の実態に合わせた対応ができるように努める。 	A

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標

○目標値「73.7%以上」に対して、校内調査の結果「84.3%」で達成した。

学校の年度目標

○目標の「92.9%を上回る」に対して、校内調査の結果「92.4%」で未達成であった。

取組内容①

- ・いじめアンケートを1、2学期に実施した。3学期も実施予定である。
- ・児童理解研修会、生活指導連絡会を9回実施している。(2月現在)いじめに関しては事案発生時に対策会議等を実施した。

取組内容②

- ・東淀川警察と連携し不審者対応研修(教職員向け)、訓練(児童向け)を8、9月に実施した。
- ・非行防止教室を5年生、薬物乱用防止教室を6年生対象に実施した。
- ・こども相談センター等の関係諸機関と連携している。

次年度に向けての改善点

取組内容①

- ・次年度も、いじめアンケートを学期ごとにしたり教育相談を随時行ったりして、いじめの早期発見、対応に取り組み、校内調査における「学校は、子どもが安心して過ごせるよう適切な安全対策をとっている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を高水準で保つ。
- ・不登校児童(家庭)に対しては、児童や家庭の実態に応じて、フリースクールなどの第三者機関の紹介を行っていく。

取組内容②

- ・不審者対応訓練において、教員がその場で臨機応変に判断できるような取り組みを続けていく。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に児童の割合79.8%を上回る。（令和6年度79.8%）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の1年生～6年生項目について、肯定的に回答する児童の割合80%を上回る。（令和6年度80%）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>社会見学および講師招聘による体験的な学習を行う。また、学年や学級活動での体験学習を通して、自律心を養う。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会見学を各学年1回以上、体験学習(林間学習、修学旅行等)を各学年1回以上行う。 	B
<p>取組内容② 【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>異学年との交流を深め、自分や他者の価値観を尊重し、相手を思いやる心を醸成し、自尊感情を育てる。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年や学級に応じて自尊感情を育てる取り組みを行ってから、校内調査により振り返りを行う。 ・きょうだい学年による集会等異学年交流を実施する。 	B

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に児童の割合79.8%（令和6年度79.8%）を上回るという目標を掲げ、84.5%と目標を達することができた。

学校の年度目標

○校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の1年生～6年生項目について、肯定的に回答する児童の割合80%（令和6年度80%）という目標を掲げ、84.5%と目標を達することができた。

取組内容①

- ・社会見学や体験学習（林間学習、修学旅行等）予定通り、実施できている。

取組内容②

- ・きょうだい学年による集会等異学年交流を実施できた。

次年度に向けての改善点

取組内容①

- ・社会見学や体験活動を計画的に行うことができた。いくつか候補がある中で子どもたちの体験的な学習につながるものを吟味していく。
- ・校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は80%を超えたが学年によっては達成していない学年もあるので、全学年で80%を超えるようにしていく。

取組内容②

- ・学年や学級で自尊感情を育てる取り組みを継続して行っていく。
- ・きょうだい班や集会、ふれあいむかしあそびなどを計画的に実施し、異学年交流を実施していく。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○校内調査における「外国語（英語）の学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合85.8%を上回る。（令和6年度85.8%）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>対話的な学びや振り返る活動も視点においた授業研究や校内研修を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日1回は、ペア、グループ、全体交流など段階を踏んだ話し合い活動を取り入れる。 ・1単元2回は、学習内容を振り返る活動を行う。 ・研究授業や校内研修を年間30回以上行う。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>語彙力や計算力など基礎基本を重視した個別の学習支援を行う。読解力の向上を目指した読書習慣の育成を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を活用してデジタルドリルに週に2、3回程度取り組み、基礎基本の学習内容の定着を図る ・低学年において授業内における「学びサポーター」の効果的な活用を図る。 ・学期に1回以上、3分間読書などの読書イベントの機会を設ける。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>英語担当教員、担任、C-NETのティームティーチングにより、楽しい英語の授業を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週2回英語のモジュールタイムを実施する。 ・毎授業、外国語（英語）の授業で学習したことを使って、やりとりや発表を行う。 	B

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる目標に対して、達成できなかった。上回るという目標を掲げたが、達することができなかった。

学校の年度目標

○校内調査における「外国語（英語）の学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合85.8%を上回るという目標を掲げ、84.5%と目標を達することができた。

取組内容①

- ・段階を踏んだ話し合い活動を意識して取り入れていた。
- ・1単元に2回以上、学習内容を振り返る活動を行うようにした。
- ・予定に沿って、研究授業や校内研修を実施した。

取組内容②

- ・算数を中心にデジタルドリルの宿題をだしたり、授業内で活用したりした。
- ・「学びサポーター」の効果的活用が図られている。
- ・予定通り読書イベントが設けた。

取組内容③

- ・週2回のモジュールタイムを実施している。
- ・外国語の時間に学習した表現を使って、やり取りをしている。
- ・担当教員がキャラクターになりきり、多くの児童が楽しみながら、やり取りをしている。

次年度に向けての改善点

取組内容①

- ・引き続き、取り組みを継続していくとともに、話し合い活動や振り返りの活動の目的や意義について共通理解を図るとともに、その手法についても工夫の余地があると考え。

取組内容②

- ・引き続き、取り組みを継続していくとともに、デジタルドリルの効果的な活用法についても、議論の余地がある。

取組内容③

- ・引き続き、取り組みを継続していくとともに、英語を使うことの習慣化が図られるような取り組みを実践していく。

大阪市立菅原小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を63.2%以上にする。（令和6年度63.1%）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○校内調査における「給食をのこさず食べるように心がけている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合94.2%を上回る。（令和6年度94.2%）</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>スポーツタイムを活用し、体力の向上を図るとともに運動好きな子どもを育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学期1回以上、学年の実態に応じスポーツタイムを実施する。 なわとび週間やかけ足週間を実施し、記録カードにがんばりを記入する。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体ほぐしの運動と体幹を鍛える運動を全学年で行うことで、児童の柔軟性を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育科でスポーツリズムトレーニングなどを取り入れ、体ほぐしの運動と体幹を鍛える運動を行う。 全児童が年に2回長座体前屈と反復横跳びを計測し、効果を測定する。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>給食週間や生活強調週間、清潔調べの実施により、食や健康に関する児童の意識を向上させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期に1回、生活強調週間や「ピッカピカ給食大作戦」を実施する。 ハンカチやティッシュ等の携帯を意識づけるため、週1回清潔調べをする。 	B

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

- 全市共通目標の、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は 68.0% となり、目標の 63.2% 以上を達成することができた。
- 学校の年度目標の、校内調査における「給食をのこさず食べるように心がけている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は 95.0% となり、目標の 94.2% 以上を達成することができた。

取組内容①

- ・スポーツタイムをおおむね学期に 1 回実施した。内容としては、クラス対抗のドッジボール大会や、水泳大会等、学年の実態に応じて取り組むことができた。
- ・なわとび週間とかけあし週間を実施した。記録カードにがんばりを記入することで、児童の運動への意欲向上につなげることができた。

取組内容②

- ・体育科でスポーツリズムトレーニングなどを取り入れることができた。
- ・長座体前屈と反復横跳びの計測を予定通り実施し、長座体前屈は 1.3 ポイント、反復横跳びは 1.3 ポイント、記録を伸ばすことができた。

取組内容③

- ・学期に 1 回、生活強調週間や「ピッカピカ給食大作戦」を実施することができた。
- ・今年度は健康委員会の児童が清潔調べを担当し、週 1 回の清潔調べを実施することができた。

次年度に向けての改善点

取組内容①

- ・スポーツタイムは今後も実施していく。
- ・なわとび週間、かけ足週間ともに今後も実施していく。実施方法については、今後検討していく。

取組内容②

- ・今後も実施していく。スポーツリズムトレーニングを取り入れやすいように、研修をしたり、動画を活用したりする。

取組内容③

- ・今後も実施していく。清潔調べについては、引き続き健康委員会の児童が担当していくようにする。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の78.7%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。〕（令和6年度78.6%）</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>・子どもの興味・関心を高めるため、教育情報利用パソコンなどを使用するなど積極的なICT機器の活用を行う。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>○プログラミング学習、情報モラル教育の年間計画、情報活用能力のチェックリスト策定したり、進捗状況の確認をしたり、インストールしたいアプリの検討をしたりする。</p> <p>○朝に心の天気の入力を行う。（児童一人につき、年間170回以上）（R6 160回）</p> <p>○学期に1回、情報強調週間を設け、ICT機器活用の推進を行う。</p> <p>○教育情報利用パソコン（児童用）などのICT機器の効果的な活用について、年2回以上研修を行う。</p>	A

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

- ・目標値「78.7%以上」に対して、1月末までに88.7%達成

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の78.7%以上にするに対して、校内調査では88.7%と達成している。

取組内容①

- 情報部にて、進捗状況の確認をしたり、インストールしたいアプリの検討をしたりしている。
- 朝に心の天気の入力を行う。児童一人につき、年間170回以上の目標に対して1月現在182回入力している。心の天気を生活指導部と情報部で推進を行った結果、多くの学級で実施することができた。
- 学期に1回、情報強調週間を実施することで、挑戦的な活用実践など校内で取り組んだ結果、校内全体のICT活用の能力は向上している。
- 教育情報利用パソコン（児童用）などのICT機器の効果的な活用についての研修を実施している。

次年度に向けての改善点

取組内容①

- 心の天気の定着に関しては、人権部や学年で活用の方法を検討していく。
- 指導者がスクールライフノートを活用するという意識を持ち、児童に声掛けを行っていくようにする。また、心の天気の入力された内容を指導者が確認し、雨マークや雷マークの児童に対し話を聞くなどの声掛けを行っていく。
- 心の天気を毎日入力することを心掛けてはいるが、時間割の関係で毎朝入力する時間を確保することが難しい日も多くある。→持ち帰りをして、家でも入力できるようにする。
- 今後もプログラミング学習、情報モラル教育の年間計画、情報活用能力のチェックリストを策定したり、進捗状況の確認をしたり、インストールしたいアプリの検討するが、情報部で取り組みを考えるのではなく、各教科領域に分担していく。

大阪市立菅原小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準（基準1）を満たす教員の割合を73.3%以上にする。（令和6年度73.2%）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査において「学校は情報公開をよく行っている」と回答する保護者の割合94.4%を上回る。（令和6年度94.4%）</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保することができる環境づくりを行う。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退勤日を月に2回設定・ゆとりの日を週1回設定し実施する。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】</p> <p>学校だよりやミマモルメ、保護者会などで学校からの情報発信を常に行うことで、透明性のある学校づくりを行う。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度のみまもるめの登録の人数を90%以上にする。 ・ ミマモルメを活用した家庭連絡を年3000回実施する。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】</p> <p>見まもり隊等、地域との交流の活性化により、学校と地域の連携をより深める。防災拠点としての学校の役割を高めるため、防災教育に区役所や地域の防災組織と連携した活動を取り入れる。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区役所や地域防災組織、PTA等と連携した防災訓練を実施する。 ・ 実施することができた活動について、ホームページで発信する。 	B

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標

- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準（基準1）を満たす教員の割合を73.3%以上にするに対して、72.5%と未達成であった。

学校の年度目標

- 年度末の校内調査において「学校は情報公開をよく行っている」と回答する保護者の割合を94.4%以上に対して93.2%と未達成であった。

取組内容①

- ・定時退勤日を廃止し、ゆとりの日を週1回実施したが、全教職員がゆとりの日を活用できているとは言えない。

取組内容②

- ・ミマホルメの登録の人数を90%以上に対して99.8%と達成し、ほぼすべての家庭がミマホルメを登録している。
- ・ミマホルメを活用した家庭連絡を年3000回実施に対して1月19日現在4563回（152.1%）と達成している。

取組内容③

- ・区役所や地域防災組織、PTA等と連携した防災訓練を9月に実施した。
- ・2月に実施した地域の防災活動では、校内の防災担当が参加した。区役所の防災担当と地域防災リーダーと交流し関係性を構築するとともに、地域の実践的な活動を通して、防災の知見を深めた。
- ・区役所の安全課と連携し、地震・津波の研修を実施した。
- ・防災活動を実施することができた。活動について、ホームページで発信した。

次年度に向けての改善点

取組内容①

- ・ゆとりの日を週1回設定しているが、持ち帰りの業務もあるため、組織として、教職員の業務の偏りがなく業務内容を見直すとともに、各教職員が業務の効率化を図っていく。

取組内容②

- ・令和8年度は、ミマホルメ登録100%を目指して、推進していく。
- ・引き続き学校から情報を開示していくことで、透明性のある学校づくりに努めていく。

取組内容③

- ・今後も防災インベントや防災学習に参加するなど、防災意識を高める活動を継続していく。
- ・地域の防災活動を通して得られた知見をもとに、教職員・児童・地域の方の動きを具体的にイメージをし、より実践的な計画を立てていく。